

特定事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都市南区吉祥院宮の東町2番地								
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	株式会社 堀場製作所 代表取締役社長 堀場 厚								
特定事業者の主たる業種	分析機器製造業								
該当する事業者要件	<input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））								
計画期間	平成20年 4月 ～ 平成23年 3月								
基本方針	省エネ・省資源活動による売上げ高原単位CO ₂ 排出量を削減する。								
推進体制	IMS（統合マネジメントシステム）全社活動のテーマの下、総務部が推進主体となって全社活動を実施する。								
	環境マネジメントシステム名称	ISO14001							
	適用範囲	全社							
具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
	平成20年度	本社開発棟他	・開発棟の空調（GHP）を省エネ機種に更新完了。						
	平成21年度	本社工場	・将来に向けて試験的に応接室、エントランス等にLED照明やCCFL（冷陰極蛍光管）を設置。						
	平成22年度	本社事務棟・開発棟他	・事務棟GHP空調11台をEHP高効率機種10台に更新完了。（10月） ・空調使用時の室温管理（夏季28℃・冬季20℃）の徹底と終業時間30分前の社内一斉空調停止運動の実施。 ・開発棟の換気扇を全熱交換器（ロッド38台）に交換。 ・構内設置の飲料自販機30台をヒートポンプ式に入れ替え。 ・社有車両（ガソリン）の電気自動車への入れ替え。（1台）						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率（計画）	報告年度（実績） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率（実績）			
	A 事業所等排出区分	4,847.8 t	5,058.3 t	4.3 %	4,562.5 t	-5.9 %			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
	C その他排出区分	1.8 t	1.8 t	0.0 %	0.4 t	-77.8 %			
	排出合計	4,849.6 t	5,060.1 t	4.3 %	4,562.9 t	-5.9 %			
実績に対する自己評価	社内的に高効率空調設備への更新や運用面での省エネ活動を実施した結果、絶対量では基準年度より5.9%下回った。								
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
	本社工場	二酸化炭素換算 （売上高）	8.568 t-CO ₂ /億円	7.785 t-CO ₂ /億円	-9.1 %	10.085	17.7 %		
		二酸化炭素換算 （ ）			%		%		
		二酸化炭素換算 （ ）			%		%		
実績に対する自己評価	機器の更新や省エネの取組みを行なったが、基準年度に比較し大幅な売上高の減少をカバーしきれなかった為、排出絶対量では減少したものの売上高原単位では上昇した。								
地球温暖化対策貢献量	対策等の区分	目標年度（計画）				報告年度（実績）			
		取組量等		（二酸化炭素換算）		取組量等		（二酸化炭素換算）	
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha	（吸収量）	t
	市内産の木材の利用	（利用量）	m ³	（削減量）	t	（利用量）	m ³	（削減量）	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（発電量）	kwh	（削減量）	t	（発電量）	kwh	（削減量）	t
		（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh	（削減量）	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	（購入量）	t	（削減量）	t	（購入量）	t	（削減量）	t
削減量等合計			t				t		
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	・新製品開発時に製品のライフサイクルに配慮した環境適合設計を継続して推進した。 ・モデルフォレスト活動に社員を参加させた他、学校等への環境出前授業の実施、市・府が提唱するライトダウンキャンペーンに参加するなど幅広い活動に参画した。								
特記事項									

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のそれぞれの年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは本市の区域内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を本市の区域内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の本市の区域内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、○□工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（製造品出荷額、延床面積、走行距離等）を記入してください。
 5 「地球温暖化対策貢献量」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「地球温暖化対策に資する社会貢献活動」には、省エネ製品開発など他の温室効果ガス排出削減への貢献や地域における環境教育の実践活動など、地球温暖化対策や環境負荷の低減につながる活動を記入してください。
 7 「特記事項」には、1990年を基準とした排出量の対比や、温室効果ガス排出量の算定に当たって独自の係数を使用した場合など、説明を要する事項について記入してください。

